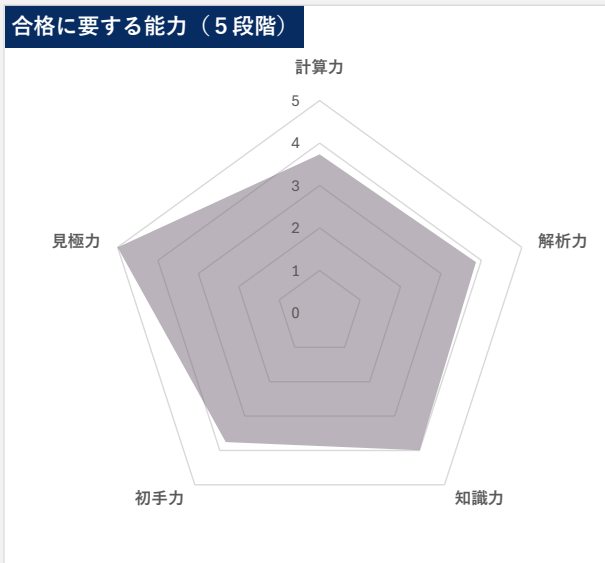


総合分析

試験区分 一般 (前期)

制限時間 90分 大問数 全 5 問



合格に要する能力 (5段階)

計算力	3.5	高度な計算をやり遂げる力
解析力	3.7	問題文を正しく読み取る力
知識力	3.8	解くことに必要な知識の量
初手力	3.6	初手の難しさ
見極力	4.8	解きやすい問題を選択する力

特記事項 前期で初めて会話文が出題された

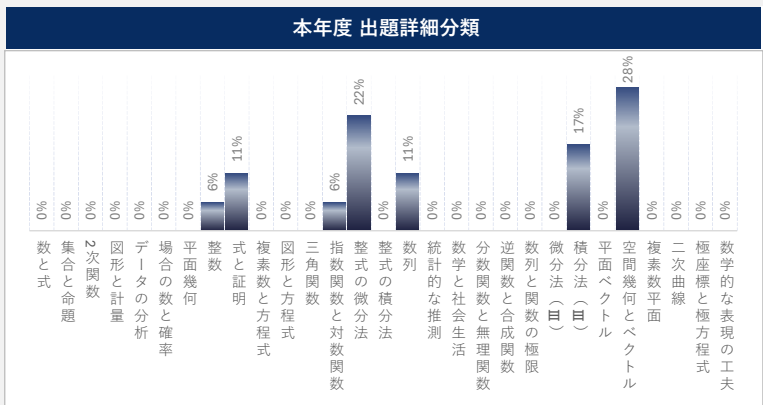
出題分野

数学 I	0%
数学 A	6%
数学 II	39%
数学 B	11%
数学 III	17%
数学 C	28%

本年度 解答形式
マーク 100%

本年度出題テーマ一覧

第 1 問	指数計算と相加相乗
第 2 問	空間ベクトル
第 3 問	極値を取る点を通る曲線
第 4 問	整数と漸化式
第 5 問	球の通過領域の体積



特殊問題の有無

記述なし	証明なし
統計なし	数IIIあり
	長文あり

総合評価

難度	3.9	最難を 5 とする問題自体の難度	やや難しい	一次合格に必要な正答率 (予想)	53%
分量	125分	完答に要する時間 (制限時間は90分)	多い	正答率をさほど要さない	

入試の特徴と対策
▶ 少ない単元の知識で解けるものが多い。単元ごとに公式を確認しておこう。

入試から見る大学が求める学生像
ここ数年推薦入試では毎年出題されていた会話文が初めて前期試験で出題された。おそらく受験生は前期で会話文が出題されるとは思っておらず動揺した学生も多かっただろう。
分量も多く何を優先するかの判断力を持ち、不測の事態が起きた時に冷静でいられる学生を求めていると考えられる。